

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から⑤

今回紹介するのは戦後間もない時期に、松山市を描いた鳥瞰ちようかん図である。この連載においても何度か登場した「大正の広重」と吉田初三郎が描いたもので、読者の中には「またか」とお思いの方もいらっしゃるかもしれない。それでもなお、今回も初三郎の鳥瞰図を取り上げるの

は、珍しい資料が本館の特展「瀬戸内ヒストリア」で展示されているからである。まず写真の資料について紹介すると、1949（昭和24）年に松山市が発行した観光リーフレットに掲載された鳥瞰図である。愛媛県産業復興松山大博覧会が

介されている。筆者の興味を引いたのは、お土産として紹介されていた「子規せんべい」である。調べてみると、2017年の愛媛新聞の記事を見つけた。記事によると、大正から昭和40年代にかけて、市内の菓子店が製造販売していたようで、四角のせんべいに子規の句が焼き印で押されたものだったらしい。当時のお土産の様子もつかえ非常に興味深い。

では、松山市鳥瞰図に関わる珍しい資料とは何か。それは、鳥瞰図の原画と思われる、吉田初三郎の肉筆画である。絹に描かれ額装されており、松山城が所蔵している。全国各地に吉田初三郎の肉筆画は残されているが、県内では数点しか確認されておらず、珍しい資料と言える。肉筆画と観光リーフレット版の鳥瞰図を比べると、色彩が多少異なり、リーフレット版には詳細な地名が加えられ、さらに英語表記も追加されていた。肉筆画は当館所蔵の資料でないため掲載しないが、当館の特展「瀬戸内ヒストリア」（24日まで）では両資料を並べて展示している。印刷された鳥瞰図と肉筆画を一緒に見られる貴重な機会なので、ぜひご覧いただきたい。

1949年発行の松山市観光リーフレットに掲載された同市の鳥瞰図
（左側トリミング）＝県歴史文化博物館蔵



戦後松山市の鳥瞰図

観光PR 肉筆画も存在

開催された年で、リーフレットの各所に博覧会情報が記されていることから、宣伝も兼ねて作成されたものと考えられる。鳥瞰図の裏面には、松山市の観光PRがぎっしり記され、松山城や道後温泉、また四国霊場の石手寺や太山寺などが紹

（学芸員・甲斐未希子）
〈8月2回掲載します〉